

2025 参院選 報告① (2025.07.27 市民連合ふくおか・公開運営会議)

1) 参議院選挙前・選挙中にしたこと

◎「市民連合ふくおか」として選挙前に行ったこと

(目的) 衆議院に続いて参議院でも与党(自公)過半数割れ

改憲勢力の議席を 2/3 未満にすること

投票率を上げることで政治を変える

「ミサイルよりコメを」経済政策に力点をおく

・全国市民連合の動きに続いて「市民と野党の共闘」を可視化するため

「信じられる未来へ」を立憲・共産・社民・沖縄の風に手交・確認(6/9 ~ 6/12)

⇒国政3党・地域3党との合同懇談会を継続実施

立憲民主党・日本共産党・社会民主党の各県組織

ふくおか緑の党、ふくおか市民政治ネットワーク、市民ネットワーク福岡

⇒6/28(土)第14回合同懇談会で「市民と野党の約束」を6党と手交・確認

⇒7/1(火)記者会見、西日本・共同・毎日・NHK・赤旗記者が参加、報道は赤旗のみ

・投票率を上げるため

街頭行動 6/8 参院選夏まつり、6/29 総かがり行動に参加、7/2 緊急行動

チラシ 10 万枚配布・投函 参加団体に割当、地図を作成し可視化

統一キャラクター「とうひょうくん」を使った横断幕2種・プラカードを作成し配布

◎「市民連合ふくおか」として選挙中に行ったこと

・「市民連合ふくおか」Facebook・インスタ・Xで、

①立憲・共産・社民の候補者情報を毎日流した。

②事前に収録していた4候補者のショート動画(字幕付き)を順番に流した。

③メーリスを使って、選挙関連の様々な情報を毎日流した。終盤には、福岡選挙区の情勢についての注意を喚起した。

2) 参議院選の結果

◎投票率 全国・福岡県ともに上昇

(全 国) 有権者数 1 億 359 万 1806 人

2025 参院選 58.51%← 2022 参院選 52.05%← 2019 参院選 48.80%← 2016 参院選 54.70%
(+ 6.46%) △ 669 万人

2024 衆院選 53.85%

(福岡県) 有権者数 419 万 1933 人

2025 参院選 55.66%← 2022 参院選 48.76%← 2019 参院選 42.85%← 2016 参院選 52.85%
(+ 6.9%) △ 28.9 万人

2024 衆院選 51.59%

◎有権者の意向を反映し、自公は議席減・過半数割れ

自民党 選挙区 27・比例 12 = 39 (改選前 52)、非改選数 62 計 101 議席

公明党 選挙区 4・比例 4 = 8 (改選前 14)、非改選数 13 計 21 議席

※自公合わせて 122 議席 (過半数は 124 議席)

※自民党比例区で落選 杉田水脈・和田政宗・佐藤正久など

◎改憲勢力 2/3 以上は継続のまま

自民党 101、公明 21、維新 19、参政 15、保守 2、国民 22 諸派・無所属を除く
⇒計 180 議席（248 議席の 2/3 超えは 166 議席）

◎市民連合が「市民と野党の共闘」で応援している立憲野党は後退、れいわは微増

立 憲 選挙区 15・比例 7 = 22（改選前 22）、非改選数 16 計 38 議席
（複数区 6・1 人区 9）

共産党 選挙区 1・比例 2 = 3（改選前 7）、非改選数 4 計 11 議席
（東京都）

社民党 選挙区 0・比例 1 = 1（改選前 1）、非改選数 1 計 2 議席

れいわ 選挙区 0・比例 3 = 3（改選前 2）、非改選数 3 計 6 議席

◎国民・参政が躍進、議席数を増加させた、保守党も議席確保、維新は微増

国 民 選挙区 10・比例 7 = 17（改選前 4）、非改選数 5 計 22 議席
（複数区 7・1 人区 3）

参政党 選挙区 7・比例 7 = 14（改選前 1）、非改選数 1 計 15 議席

保守党 選挙区 0・比例 2 = 2（改選前 0）、非改選数 0 計 2 議席

維 新 選挙区 3・比例 4 = 7（改選前 6）、非改選数 12 計 19 議席
（京都府 1・大阪府 2）

◎比例区票 1 位自民、2 位国民、3 位参政、4 位立憲・・

①自民党 1280 万 8306 票（21.6%） 2024 衆院選 1458 万 2690 票（26.70%）▼ 178 万
⑤公明党 521 万 0569 票（8.8%） 2024 衆院選 596 万 4416 票（10.90%）▼ 75 万
⑥維 新 437 万 5926 票（7.4%） 2024 衆院選 510 万 5127 票（9.30%）▼ 73 万
②国 民 762 万 0489 票（12.9%） 2024 衆院選 617 万 2434 票（11.30%）△ 145 万
③参政党 742 万 5053 票（12.5%） 2024 衆院選 187 万 0347 票（3.40%）△ 555 万
⑧保守党 298 万 2093 票（5.0%） 2024 衆院選 114 万 5622 票（2.10%）△ 184 万
※北村晴男 975122 票・・比例個人最多

④立 憲 739 万 7459 票（12.5%） 2024 衆院選 1156 万 4221 票（21.10%）▼ 417 万

⑨共産党 286 万 4738 票（4.8%） 2024 衆院選 336 万 2966 票（6.10%）▼ 50 万

⑪社民党 121 万 7823 票（2.1%） 2024 衆院選 93 万 4598 票（1.70%）△ 28 万
※ラサール石井 207143 票

⑦れいわ 387 万 9914 票（6.6%） 2024 衆院選 380 万 5060 票（6.90%）△ 7.5 万
※得票率は - 0.3%

⑩みらい 151 万 7890 票（2.6%）・・比例 1 議席獲得

⑫N 党 68 万 2626 票（1.2%）・・議席なし

⑬再 生 52 万 4787 票（0.9%）・・議席なし

⑭誠真会 33 万 3263 票（0.6%）・・議席なし

◎社民が得票率 2%をこえて、政党要件を維持できたことは喜ばしい。

◎ 32 の 1 人区について

・市民連合を介した野党統一候補がいた 17 選挙区（共産擁立なし）うち 12 で勝利。

東北 3 (岩手・宮城・秋田)、中部北陸 2 (長野・新潟)、近畿 1 (三重)
四国 2 (愛媛・徳島高知)、九州 4 (大分・宮崎・鹿児島・沖縄)

※□ は無所属、他の 8 選挙区は立憲

・自民が敗北、野党系候補が 18 選挙区で勝利。

上記 12 + 青森 (立民候補が勝利、共産と競合)

+ 山形・山梨・富山・和歌山・香川 (国民・無所属候補、共産・維新と競合)

※□ は無所属、他の 3 選挙区は国民

・立憲の議席現状維持に貢献 (22 議席のうち 9 議席を占める)

・市民連合を介しての政策確認⇒ 6/19 立憲・共産の党首会談⇒ 候補者調整実施の結果

◎複数区について

・公明現職が落選 (3 人) 埼玉・神奈川・愛知

・共産現職が落選 (2 人) 埼玉・京都

・立憲現職が落選 (3 人) 茨城・東京 (1 人)・福岡

・参政新人が当選 (7 人) 東京・埼玉・神奈川・茨城・愛知・大阪・福岡

◎福岡選挙区・比例区について

(2025 選挙区 供託金のラインは 97218 票)

(2022 参院選) 16 人立候補

自民党・松山政司 419082 票 (18.3%)

自民党・大家敏志 586217 票 (29.2%)

参政党・中田優子 380692 票 (16.6%)

立憲・古賀之士 438876 票 (21.8%)

公明党・下野六太 320391 票 (14.0%)

公明党・秋野公造 348700 票 (17.3%)

国民・川元健一 306409 票 (13.4%)

維新・龍野真由美 158772 票 (7.9%)

立憲・野田国義 303624 票 (13.3%)

国民・大田京子 133900 票 (6.6%)

れいわ・沖園理恵 138374 票 (6.0%)

共産・真島省三 98746 票 (4.9%)

保守党・森健太郎 111196 票 (4.9%)

れいわ・奥田扶美代 82333 票 (4.1%)

維新・伊藤博文 102557 票 (4.5%)

参政党・野中しんすけ 72253 票 (3.6%)

共産党・山口湧人 75596 票 (3.3%)

社民・福本貴紀 30190 票 (1.5%)

みらい・古川あおい 52862 票 (2.3%)

(以下、省略)

社民党・那須敬子 45207 票 (2.0%)

誠真会・富永正博 21690 票 (0.9%)

N 党・村上成俊 13767 票 (0.6%)

(比例区)

自民党 2025 参院選 453899 票 (19.84%)、2024 衆院選 532370 票 (25.27%)

公明党 2025 参院選 250183 票 (10.94%)、2024 衆院選 318003 票 (15.10%)

参政党 2025 参院選 342011 票 (14.95%)、2024 衆院選 105056 票 (4.99%)

保守党 2025 参院選 138908 票 (6.07%)

維新 2025 参院選 112564 票 (4.92%)、2024 衆院選 172347 票 (8.18%)

国民 2025 参院選 288175 票 (12.60%)、2024 衆院選 235169 票 (11.16%)

立憲 2025 参院選 266498 票 (11.65%)、2024 衆院選 414604 票 (19.68%)

れいわ 2025 参院選 166607 票 (7.28%)、2024 衆院選 166686 票 (7.91%)

共産党 2025 参院選 89461 票 (3.91%)、2024 衆院選 110535 票 (5.25%)

社民党 2025 参院選 50986 票 (2.23%)、2024 衆院選 51788 票 (2.46%)

◎比例区で参政党に投票した人の内訳（朝日新聞7月20日実施出口調査より）

◆性別 男性60%・女性40%

◆年代別 10代(4%)・20代(15%)・30代(17%)・40代(21%)・50代(21%)
60代(13%)・70代(7%)・80歳以上(2%)

※参政党は「就職氷河期世代」「ロスジェネ世代」の男性が多かった。

※30代までは国民民主党に投票した人の方が多かった。

10代(5%)・20代(21%)・30代(17%)・40代(18%)・50代(18%)
60代(11%)・70代(7%)・80歳以上(2%)

◆投票でSNSを重視したか 重視した73%、重視しなかった26%

※他党の重視した人の割合

日本保守党(69%)、れいわ新選組(63%)、国民民主党(57%)

◎Nテレ 7月17日ニュース) 年代別 比例はどこに投票？

18歳～39歳 国民20%、参政16%、自民10%、立憲6%、維新・保守5%

40歳～59歳 参政13%、国民11%、自民11%、立憲・れいわ9%、保守5%

60歳以上 自民22%、立憲18%、参政9%、維新・国民7%、公明6%

◎「市民と野党の共闘」について（全国市民連合の会議での意見）

- ・立憲・共産・社民と沖縄の風、3党1会派の横つながりがもっとできていれば、野党第一党の立憲に本気度がもっとあれば、結果は違ったのではないか。
- ・京都の共産・倉林さんが落選。沖縄戦について問題発言した自民・西田候補に対する共闘、もっとできなかったのか？
- ・自公は過半数割れをしたが、市民連合が想定していた立憲野党が増えていない。
- ・どういう政権交代が可能なのか？ 考えなければならない。
- ・一緒に動いてきた政党が選ばれなかったことについて、政党と市民の対話集会などを提案し、考えていきたい。

◎参政党躍進について（全国市民連合の会議での意見）

- ・参政党(比例7・選挙区7当選) 地方議員が140～150人、組織力を持っていて、2025参院選では全選挙区に候補者を擁立。
(福岡県) 地方議員3人(福岡市議、みやこ町議、荏田町議各1人)
小選挙区ごとに支部あり(ネット)
- ・参政党などの差別・排外主義に対して、即時に全国でアクションが展開されたし、カウンター抗議も広まったのは良かった。これがなければ、もっと議席・得票を増やしていた可能性あり。
⇒残念な結果ではあったが、最悪の事態は免れたとも言える。
- ・参政党の支持者は「ロスジェネ世代」が多く、初めて投票して参政党に投じたという人が多かったのではないか。
- ・日本の若い人の多くが傷ついている、何も良いことがないと思っている。その反映か。
⇒ヨーロッパのように移民が多くない日本でも、こんな風に「ファシズム」は突然やってくるんだなーと知った。
- ・参政党の「創憲案」は君民一体、国家主権を明記。連携できる政党があるのだろうか？
- ・カウンター行動、スタンディングにより流れ・雰囲気が変わった。「非国民」「反日」

発言など次第にボロが出始めた。

- ・ さや候補の「私をお母さんにしてください」発言にはビックリした。共産・吉良候補に対しては、国会議員の任期中に2度出産、自分たちのロールモデルという声が寄せられた。
⇒男性はさや候補へ、女性は吉良候補へ投票した方が多かった。当然のこと。
- ・ 参政党が伸びたことを冷静に分析すべき。格差社会で苦しむ人、被害者・高齢者とながっているか？
- ・ 多くの有権者が投票した契機を考えるべき。批判しない方がいい。継続して話すことが大切。
- ・ 「正しさ」だけでは伝わらない。「楽しい」「気付くしかけ」が大切。

◎ SNS の利用について

- ・ SNS の種類
facebook、X・Threads・Bluesky、Instagram、TicTok・ポッドキャスト、YouTube
Line など
- ・ 政党・候補者らも急速に対応
- ・ 2025 参議院選について 選挙ドットコム HP より
対象：全候補者 522 人、2025 年 7 月 3 日時点
候補者の個人サイトや各種 SNS (Facebook、X、LINE、Instagram、TikTok)、YouTube
の開設状況を調査（アカウントには本人・事務所・後援会が開設したものを集計）
利用率の順位
X (85.2%) ⇒ Instagram (73.4%) ⇒ YouTube (72.2%) ⇒ Facebook (71.1%)
若年層の利用が多い TikTok は 30.8%
友達登録をした相手にのみ情報を発信できる LINE は 27.4%
- ・ 発信は充実。受信・拡散は各党の支持層により異なる。
- ・ 若年層の支持が高い政党ほど拡散力あり。